

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 30 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	塚崎雅之	会員番号	0035613	
申請者の所属・職名	東京医科歯科大学医歯学総合研究科細菌感染制御学・学振 PD			
出席会議名	7th International Conference on Osteoimmunology			
発表論文タイトル	Host defense system against bacterial infection by the osteoimmune crosstalk			

実施結果:

この度は、平成 30 年度前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に選出いただき、誠にありがとうございました。岸本忠三先生、選考委員の先生方ならびにご推薦いただきました高柳広先生に厚く御礼申し上げます。

2018 年 6/3-6/8 の 6 日間、ギリシャのクレタ島で開催された 7th International Conference on Osteoimmunology に参加させて頂きました。Osteoimmunology (骨免疫学) とは、骨代謝学と免疫学の融合領域であり、自己免疫疾患である関節リウマチの骨破壊メカニズム研究を中心に発展してきた、学際的な学問です。本学会は 2 年に 1 度、ギリシャの島を巡って開催されており、今年で 14 年目を迎えます。

本年は、骨髄環境や造血幹細胞に関する発表が多く、当該領域への関心の高さが伺えました。骨芽細胞、破骨細胞、骨細胞、血管内皮細胞といった、骨代謝を調節する細胞たちが、どのようにして造血系の恒常性維持や腫瘍化に寄与するのかという疑問は、今後の骨免疫学の発展において大きな driving force となると感じました。その他のトピックとしては、常在菌と骨代謝の関連や、細菌感染に伴う炎症性骨破壊である歯周病のメカニズムなど、細菌と骨免疫系との関係性に会場の関心が集まっていました。私も、大学院時代の研究成果である、口腔細菌により誘導された免疫細胞が、組織破壊や生体防御に果たす役割 (Tsukaskai et al., Nature Communications 2018) について発表し、世界中の参加者から多くの質問やディスカッションを頂きました。

クレタ島の美しく壮大な大自然の中で、100 名程度の参加者全員が学会のセッションだけでなく、毎日一緒にランチ、レクリエーション、ディナーの時間を過ごすことで、自然と有意義な議論や新しいアイデアの創出が生まれるような、サイエンスを楽しむ自由な空気が流れていました。本学会で得たアイデアや経験を生かし、今後更に良い研究ができるよう精進して参りたいと思います。